



明峰

令和7年7月18日

第10号

校長 岡野利男

※43名の県中総体出場者の激励会を一昨日、行いました。それぞれのチーム、選手による大変立派な決意表明。
県内各会場での健闘を祈ります。

明峰中生 1学期の「通知表」

1学期の明峰中生全体の学校生活を振り返り、次の3つについて、5段階評定します。

「優しさとさわやかさ」のあいさつ・・・「3」

来校されたお客様からは「生徒さんの挨拶がとてもいいですね」とお褒めの言葉を頂きます。廊下ですれ違う際、自然と「こんにちは」が聞こえてくるのは明峰中生のいいところです。しかし、ここは、より高さを求めて「3」としました。御家庭での話題にしていだければ。

①「学校の外でも」「制服を着替えても」「一人でも」は大丈夫か。

厳しい言い方ですが、逆に見れば「街なかでもできますか。」「制服を着ていない時でもできていますか。」「友達がいない一人の時でもできるでしょうか。」ということ。子供たちには、生きていくうえで【本物のあいさつ】を携えさせたいと思うのです。是非、夏休みにチャレンジを。

②「誰に対しても」は大丈夫か。

先述のように、来校された方から「挨拶の良さ」を評価される一方、誰に対しても、もっと言えば、来校されるすべての方にできているだろうかと感じる場面があります。大切なことです。今回、著作権の関係上、記載はしませんが、江口いとさんの「人の値打ち」という詩があります。インターネットですぐに出てきますので、親子で読み、感じたことを話し合っていただけたら。

「行事への取組とその前後」・・・「5」

3年生のリーダーシップはたいへん立派なものでした。体育大会ではその準備段階から、学年集団の質の高さを感じました。1年生・2年生のフォロワーシップも大変よかった。体育大会・中総体といった大きな行事の後の反動、なかったとは言いませんが、「いやいやこの程度であれば」と言ったところです。2学期は、第3学年からのバトンの引継ぎが本格的に始まる時。楽しみです。



「生徒同士の相互承認」・・・「3」

学校だよりの第2号でこんなことを書きました。「学校というところは、一人一人の“咲きたい時”が相互承認されるべき場所だと思います。」この一文の求めは、我々教師にあるばかりでなく、生徒にも向けたものです。誰かの真面目さを、誰かのつまずきを、誰かのこだわりを、誰かの一生懸命を、揶揄することも嘲笑することもなく、尊重し認めることが、生徒それぞれに求められます。一人一人の生徒が一人一人の生徒を大切にすることです。

基本的には、温かな集団であるものの、心ない言動が散見された1学期。「3」の評価とします。一本の傘を3年間使える中学校にする。全員の覚悟がないと望めることはありません。

校長室からの課題

今週の校長室前の黒板メッセージです。

夏の蓄え

夏休みに当たり、校長室からの課題を課したい。

- 1 学習と生活、そのリズムの確立に挑むこと。
- 2 読書や体験を通して、未知なることと出会うこと。
- 3 家族の一員として、はたらくこと。

夏の蓄えは、必ずあなたに、成果としてやってきます。

課題とした以上は、提出を求めます。

本日、お子様にA4版1枚の課題報告用紙を渡しました。夏休み明け、私宛てに提出させることにしております。保護者の皆様にもぜひ、お知りおきいただければと思います。

課題の1、2、3のそれぞれに、思いや願いを込めていますが、特に、保護者の皆様と連携したいのは、1と3です。粘り強さ、自己コントロール、やり抜く力等々のいわゆる『非認知能力』と呼ばれる力は、中学生でも十分鍛えられると言われています。むしろ、思考力や判断力が高まる時期だからこそ、子供が意識して自己を鍛えることに取り組むことは効果的だとも言われています。

「自分で自分をつくる夏休み」その伴走者として、保護者と学校が連携したいものです。